

## 現状でのまとめ(1)

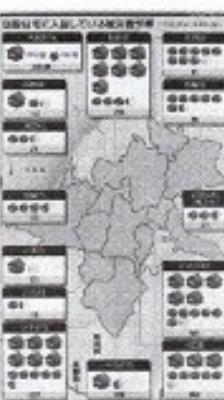
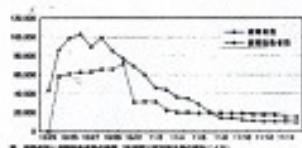
2004年11月6-7日の調査のまとめ

- ★ ウェブサイトで多くの情報が即座に公開されたのも特色の一つ。
- ★ 川口町中心部の被害は確かに大きいが、川口町田麦山地区の被害はさらに大きい。余震で崩壊した家屋もあるとのこと。
- ★ それらに比べると小千谷市街の被害は小さく、長岡市中心部の被害は微々たるものである。
- ★ 被災者からは、積雪までの緊急の道路整備と、仮設住宅が無理でもせめて家財道具の保管場所を、との要望がある。
- ★ 住宅の被災度判定と近傍の土砂崩壊危険度とに矛盾があるとの声が多く聞かれる。住宅が青ラベルでも家に戻れない。
- ★ 新幹線は脱線のみが注目されているが、機脚やトンネル内の構造被害の方がより深刻な問題ではないか。報道関係者はそれに気づいていないらしい。
- ★ 山古志村の被害は最も深刻らしいが現状では調査に入れない。

[図版 42]

## 避難者数の推移と仮設住宅入居者

避難者数(下図、11/15時点で約1万人)と仮設住宅入居者(右図、1/4現在で合計2,872世帯)



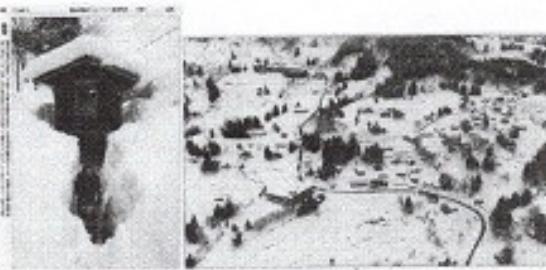
## 現状でのまとめ(2)

2004年12月5-7日の調査のまとめ

- ★ 小千谷市西部・武道館・和南津・新道島などで追加調査を実施。いずれも集落の被災度が高い地域であった。特に新道島は開拓自動車道の被災度の最も高い地域と隣接していた。
- ★ 小千谷市小栗山・山古志村(役場周辺・種芋原)など魚沼丘陵の大規模な斜面崩壊の現象を確認し、塊状泥岩の沈下を実感した。
- ★ 各所に使用されている大型土壌は7月の新潟水害で使用されたものと同じであるらしい。先般の水害の経験が生かされたか。
- ★ 仮設住宅の建設現場、ライフライン・道路・鉄道の復旧状況を一部ではあるが確認することができた。仮設住宅は長岡市南部地震の時と同じ仕様であるらしい。積雪対策は大丈夫か?
- ★ 積雪量は多くの被災地で3メートルにも達するとのこと。震災と雪害による複合災害が危惧され、今後の成り行きが注目される。

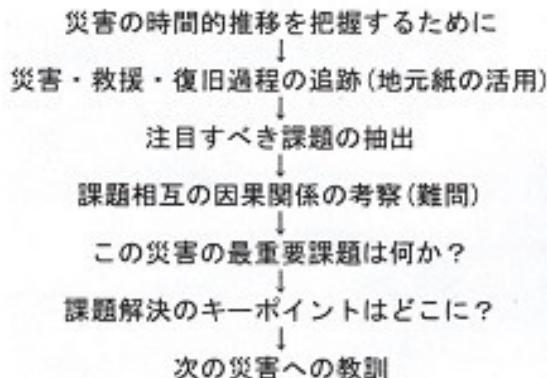
[図版 43]

## 豪雪地帯と化した最近の被災地 (1月23日の朝日新聞より)



柏尾市半蔵金 山古志村中心部(左前:山古志小、奥:役場)

[図版 45]



[図版 46]

## 被害統計量の時間的推移(人的被害と避難者の場合)

日付	被災者数	死者数	避難者数
1月1日	1,000人	10人	1,000人
1月2日	2,000人	20人	2,000人
1月3日	3,000人	30人	3,000人
1月4日	4,000人	40人	4,000人
1月5日	5,000人	50人	5,000人
1月6日	6,000人	60人	6,000人
1月7日	7,000人	70人	7,000人
1月8日	8,000人	80人	8,000人
1月9日	9,000人	90人	9,000人
1月10日	10,000人	100人	10,000人
1月11日	11,000人	110人	11,000人
1月12日	12,000人	120人	12,000人
1月13日	13,000人	130人	13,000人
1月14日	14,000人	140人	14,000人
1月15日	15,000人	150人	15,000人
1月16日	16,000人	160人	16,000人
1月17日	17,000人	170人	17,000人
1月18日	18,000人	180人	18,000人
1月19日	19,000人	190人	19,000人
1月20日	20,000人	200人	20,000人
1月21日	21,000人	210人	21,000人
1月22日	22,000人	220人	22,000人
1月23日	23,000人	230人	23,000人
1月24日	24,000人	240人	24,000人
1月25日	25,000人	250人	25,000人
1月26日	26,000人	260人	26,000人
1月27日	27,000人	270人	27,000人
1月28日	28,000人	280人	28,000人
1月29日	29,000人	290人	29,000人
1月30日	30,000人	300人	30,000人
1月31日	31,000人	310人	31,000人
2月1日	32,000人	320人	32,000人
2月2日	33,000人	330人	33,000人
2月3日	34,000人	340人	34,000人
2月4日	35,000人	350人	35,000人
2月5日	36,000人	360人	36,000人
2月6日	37,000人	370人	37,000人
2月7日	38,000人	380人	38,000人
2月8日	39,000人	390人	39,000人
2月9日	40,000人	400人	40,000人
2月10日	41,000人	410人	41,000人
2月11日	42,000人	420人	42,000人
2月12日	43,000人	430人	43,000人
2月13日	44,000人	440人	44,000人
2月14日	45,000人	450人	45,000人
2月15日	46,000人	460人	46,000人
2月16日	47,000人	470人	47,000人
2月17日	48,000人	480人	48,000人
2月18日	49,000人	490人	49,000人
2月19日	50,000人	500人	50,000人
2月20日	51,000人	510人	51,000人
2月21日	52,000人	520人	52,000人
2月22日	53,000人	530人	53,000人
2月23日	54,000人	540人	54,000人
2月24日	55,000人	550人	55,000人
2月25日	56,000人	560人	56,000人
2月26日	57,000人	570人	57,000人
2月27日	58,000人	580人	58,000人
2月28日	59,000人	590人	59,000人
2月29日	60,000人	600人	60,000人
3月1日	61,000人	610人	61,000人
3月2日	62,000人	620人	62,000人
3月3日	63,000人	630人	63,000人
3月4日	64,000人	640人	64,000人
3月5日	65,000人	650人	65,000人
3月6日	66,000人	660人	66,000人
3月7日	67,000人	670人	67,000人
3月8日	68,000人	680人	68,000人
3月9日	69,000人	690人	69,000人
3月10日	70,000人	700人	70,000人
3月11日	71,000人	710人	71,000人
3月12日	72,000人	720人	72,000人
3月13日	73,000人	730人	73,000人
3月14日	74,000人	740人	74,000人
3月15日	75,000人	750人	75,000人
3月16日	76,000人	760人	76,000人
3月17日	77,000人	770人	77,000人
3月18日	78,000人	780人	78,000人
3月19日	79,000人	790人	79,000人
3月20日	80,000人	800人	80,000人
3月21日	81,000人	810人	81,000人
3月22日	82,000人	820人	82,000人
3月23日	83,000人	830人	83,000人
3月24日	84,000人	840人	84,000人
3月25日	85,000人	850人	85,000人
3月26日	86,000人	860人	86,000人
3月27日	87,000人	870人	87,000人
3月28日	88,000人	880人	88,000人
3月29日	89,000人	890人	89,000人
3月30日	90,000人	900人	90,000人
3月31日	91,000人	910人	91,000人
4月1日	92,000人	920人	92,000人
4月2日	93,000人	930人	93,000人
4月3日	94,000人	940人	94,000人
4月4日	95,000人	950人	95,000人
4月5日	96,000人	960人	96,000人
4月6日	97,000人	970人	97,000人
4月7日	98,000人	980人	98,000人
4月8日	99,000人	990人	99,000人
4月9日	100,000人	1,000人	100,000人

[図版 47]

## 斜面崩壊の多発について



[図版 48]

## さらなる改良を経て震災の状況が

ひと目で把握できるように

行政の防災担当者・インフラに関わる機関の担当者・住民・ボランティア・マスコミ関係者・研究者などの協力による効果的な防災対応!

[図版 49]